「笹川杯作文コンクール 2010」～中国語で応募～ 第 2 回優秀賞作品

※原文に忠実に和訳しました。

「ある討論の授業」

重慶市　魏乾

学校で「感知日本・調和がとれた交流」をテーマとする作文コンクールの開催が決まった。日本文化に含まれる何かしらの要素を、例を挙げて分かりやすく文章にまとめるという課題だ。私は日本文化に対して一定の理解があるものの、テーマの選定には頭を使った。ランチタイムでさえ、ずっと考えにふけっていたのだ。「何で食べないの？箸なんていじってさあ」とルームメイトにこづかれた。「箸？」私は無意識に手の中を見た—普段と何ら変わらない箸だったが、ルームメイトの言葉で私の思考回路は遠く遠くへとつながっていった…

授業のチャイムがなり、李先生がしなやかな足取りで教室にいらっしゃった。

「箸は食器の一種で、食べ物を挟んで口に運ぶために用いる。箸の起源は中国にあり、古代中国語では表記も“箸”だった。“箸”は“助”と同音で、食事を助ける道具であることを意味している。“箸”は“住”と同音で、停滞するという不吉な意味を持つため、後の人は停滞の反意語である“快”に竹冠を付けてハシをそう呼ぶことにした。これが現代中国語のハシ(kuaizi)になっている。ここからは、みんなに中日両国の箸にまつわる文化について話してもらうよ！」李先生の前置きは簡潔で明瞭だった。

一列目の席にいる陳涛さんがまず立ち上がり、「箸は、使い方に日中で違いがあります。」と落ち着いた口調で発言した。「中国では箸の使い方に男女ともあまりこだわりはありません。しかし、日本では男性用の箸は女性用のものよりやや太くなっています。これは、そうすることにより、女性の食事量が少ないように見せ、女性の優雅さを表すことができるからです。中国にはこうした考え方がないようで、男女とも区別なく箸を使っているのです。」とのことだった。

李先生はうなずき、「はい、よく観察しているね。」と評価して他の生徒に続きを促した。

学習委員の徐敏さんが起立して発言した。「中日では箸の長さも違います。中国の箸は、日本のものよりかなり長くなっています。中国の伝統的な家庭では数々の料理を載せた大きな食卓を囲む習慣があるため、箸が短いと、遠くにある料理が取れません。立ち上がって料理を取るのも失礼なので、時間が経つうちに箸は長く進化したのです。—お陰で、気軽に遠くから料理を取ることもでき、近くの人を手伝ってあげることもできます。しかし、日本では一人前ずつ料理が盛られます。このため、短い箸でも何ら問題はありません。それに、日本では他人に料理を取ってあげるという習慣がありません。」

すると、「私も！」と張強さんが待ちきれない様子で手を挙げた。李先生はうなずいて、発言を認めた。

「中日では箸の形状も違います。中国の箸は先端が丸いですが、日本の箸は尖っています。大多数の中国人は内陸で暮らしており、農業と牧畜が主なので、食べる物も穀物と肉類が主です。こうした食物には先端の丸い箸が比較的便利です。しかし、大多数の日本人は島で暮らしているため、主に魚を食べます。先端の尖った箸は魚の小骨をよけやすく、魚を食べるには便利です。中日の生活方式の違いが最終的に箸の形状に影響したのです。」張強さんは一呼吸おいて続けた。「中日では箸づかいの作法も違います。中国人は、長さの揃わない箸を忌み嫌います。主人や来客のうち、いずれかの夫婦が早死にする兆しであるためです。また、対の色が違う箸も使いません。家庭内不和の兆しだからです。一方、日本人は、芋類を突き刺して口に運ぶことをタブーとしています。箸で皿を回すこともタブーです。」

張強さんが答え終えると、班長の李波さんが続けた。「箸を使う習慣の面でも、中日には違いがあります。日本人は使い捨ての割り箸を好み、一度で捨ててしまいます。でも、中国人は一組の箸を何度も使うことを好みます。日本人が使い捨ての箸を好むのは、日本の茶道にある“一期一会”の精神と通じるものがあります。そして、

中国人が箸を繰り返し使うという事実は、中国人の強い執着を表しています。多くの日本人が、物事は絶えず移り変わるものであると信じ、当面のことを重視しますが、中国人は後のことを重視し、時間が全てを変えられると信じているのです。」

生徒達の熱のこもった討論を聞きながら、李先生は満足そうな笑みを浮かべられた。

「みんな、とても深く観察しているね。中日の箸にまつわる文化面での違いは、基本的に整理できたようだ。もちろん、些細な箸の文化からでも中日の文化的な違いを見いだすことはできる。それぞれ独自の風土、人情、文化が日常生活のあれこれに浸透していったものだからね。ただし、みんなに覚えておいて欲しいのは、箸の文化においても、中日は決して全く違うわけではないということだ。箸の文化の起源から言うと、中日はそもそも同族だ。箸の起源は中国の古代で、唐の時代に遣唐使が日本へ伝えた。それを基礎として、日本では日本の社会環境、風習、人情などに応じて箸を改造してきた。それが今日見られる日本の箸なんだ。中日の箸の文化は、中日の文化の違いを示すだけでなく、両国の昔からの深い友情の証しでもあると言えるね！」

「箸を使う時、食物を挟むという目的を達成するには、二本が相互に協力し、協調する必要がある。同様に、ちょうど二本一組の箸のように中日両国も相互に協力し、協調して、友好的な隣国であるという関係を維持する必要がある。そうすることで、最終的には両国の調和ある発展と共に進歩という目的を実現できる…」

「ねえ、何を考えてるの？ぼーっとしてるの？」ルームメイトにまたこづかれ、私の思考が途切れてしまった。笑ってふと我に返ると、友達はランチをほとんど食べ終わっていたのに、私は全く箸を動かしていなかった。でも、内心では十分に嬉しかった。ついに自分の書くテーマが見つかったのだから。